

大正3（1914）年桜島爆発記念碑等の現状と
今後の課題について

鈴木 敏之

鹿児島県立博物館
KAGOSHIMA PREFECTURAL MUSEUM
KAGOSHIMA, JAPAN

大正3（1914）年桜島爆発記念碑等の現状と今後の課題について

鈴木 敏之

The Present and assignment of Monuments for Mt. Sakurajima Eruption in Taisho 3 (1914)

Toshiyuki SUZUKI

はじめに

鹿児島県内には、桜島の大正噴火の記録として各地に爆発および移住等の記念碑が存在している。平成21年度は、過去の文献等をもとに主に県本土内に点在している大正3年の桜島爆発記念碑の現状調査を行った（鈴木，2010）。また、平成22年度は種子島で大正3（1914）年1月の桜島大噴火で移住、開拓を記録する記念碑の現状について調査を行った（鈴木，2011）。

今年度はその続報として、新たに確認した爆発や移住に関する記念碑等の現状と今後の課題について報告する。

（注）碑文中の の部分は、大正3年噴火に関わりのある部分で、 の部分は、風化等により解読が難しい箇所である。現地での調査を基に文献等から補綴可能なものは補って記載してある。○については解読不能な箇所を示す。

1 桜島にある記念碑

(1) 櫻嶋爆発土地復舊工事記念碑

（鹿児島市桜島武町）

〔調査日〕

平成23年1月12日

〔所在地〕

鹿児島市桜島武町
南方神社境内

〔建立日〕

大正14年4月12日

〔岩石の種類〕

安山岩

〔碑の内容〕

（表面）櫻島爆発土地復舊工事記念碑

（裏面）

天下ノ名島我カ櫻島ハ大正三年一月十二日午前轟然トシテ爆発シ噴煙濛々トシテ奇騰スルコト實ニ二三万尺天地晦冥電光閃々トシテ雷鳴ヲ呼ビ地軸爲ニ

碎ケ天蓋爲メニ裂ク天地正ニ震駭驚倒ス翌十三日夕刻ノ強震前後ヨリ噴出シタル熔岩ハ東ニ於テ有村、脇、瀬戸ノ区域ヲ覆ヒテ二月一日遂ニ瀬戸海峡ヲ閉塞シ我カ西櫻島村ニ於テハ赤水、横山兩島中心繁華ノ地域ニ殺到シ村役場ヲ始メ郵便局學校其ノ他人家千餘戸ヲ埋没シ更ニ海中ニ突出シテ遂ニ島々ヲ覆没スルニ至ル小池、赤生原、武ノ部落亦火災ヲ起シテ黒土ト化ス全島噴石輕石降灰ヲ以テ埋メラレ其ノ深サ四五尺ヨリ數丈ニ達ス噴煙漸ク衰フルニ隨ヒ望郷ノ念抑止スベクモアラズ三々伍々歸村シタル罹災村民ハ食フニ食ナク住ムニ家ナク耕スニ一片ノ土地アルナシ實ニ當時村民ノ窮乏ノ悲惨ノ狀況ハ能ク筆舌ニ盡シアタハザル所ナリキ災害土地ノ復舊耕地ノ回復整理ハ最モ緊急ヲ要スル事ニ属セリ、此ノ秋ニ際シ大窪宗輔氏窮乏困憊ノ後ヲ承ケ本村長ニ就任シ銳意人心ノ安定ト資力ノ復興産業ノ再建ニ努メ村會議員有志ト相諮リ耕地復舊ヲ急ギ苦心慘憺熱誠力策シ遂ニ同年十二月十二日主務官廳ノ許ヲ受ケテ我カ西櫻島村耕地整理組合組織セラレ組合長ニ村長ヲ舉各業務執行員ニ村有志ヲ推シ協心膠力事ニ從ヒ復舊工事費トシテ政府ヨリ無利息ヲ以テ十四萬八千二百十八圓三十六錢ヲ借入レ銳意排除除石耕地復舊ノ工事ニ奮躍勉勵シ遂ニ耕地七百三十町八反二畝十八歩ヲ復舊シ村民漸ヤク其ノ堵ニ安ンジテ生業ニ從事シ得ルニ至レリ、此ノ間ニ處スルニ組合長ヲ始メ評議員組合員等ノ拮据經營苦心慘憺ハ洵ニ言語ニ絶スルモノアリトス大正十四年三月ニ至リ組合長ノ大窪宗輔氏ハ病ノ爲ニ遂ニ職ヲ辭シ上山平吉氏推サレテ後任組合長ニ就任シ年來ノ事業ヲ經營シテ守成ノ大任ニ衡ルコト、爲レリ茲ニ本村耕地復舊工事ノ概況口刻シ村民ノ熱誠堅忍ノ意圖ヲ後世ニ胎シ以テ後進子孫ノ奮勵ニ資セシムル所アラント云爾 大正十四年四月十二日

西櫻島村耕地整理組合

〔石碑の現状〕

安山岩の大きなしっかりとした石碑で、裏面の文字もしっかりとしている。大正3年1月12日からの桜島の噴火の様子を読み取ることができる。

2 薩摩半島にある記念碑

(1) 桜島爆発記念（日置市東市来町郷戸）

〔調査日〕 平成22年11月7日

〔所在地〕 日置市東市来町郷戸

〔建立日〕 不明（記載なし）

〔岩石の種類〕 溶結凝灰岩



〔碑の内容〕

（表面）桜島爆発記念

（右側面）大正三年一月十二日

（左側面）

并進舎建築 村長 濟藤仲蔵
明治四十三年三月二十九日起工
同 年 十一月九日竣工
大工木挽賃 五十二円十四錢
雜費 十六円五十六錢
人夫賃五十四円三十錢
工事監督
立和名仁右エ門 野平畷次郎
協議員
久保野仁次郎 島田八太郎

（裏面）記載なし

〔碑の現状〕

表面にはコケが生え、ツタがからまった状況であった。近くに他の碑があり、他の場所から移設された可能性もあるが、詳細は現時点では不明である。

(2) 耕地整理記念（鹿児島市東谷山）

〔調査日〕 平成23年10月9日

〔所在地〕 鹿児島市東谷山（桜川公園内）

〔建立日〕

大正2年11月26日起工，大正3年6月6日竣工

〔岩石の種類〕 溶結凝灰岩



〔碑の内容〕

（正面）上福元 塩屋 耕地整理記念

（右側面）

桜島爆発 大正三年一月十二日午前十時 石工米
沢緑畷彫刻

（左側面）

大正貳年十一月廿六日起工 大正三稔六月六日竣工

〔碑の現状〕

記載内容はしっかりと読み取ることができる。左側面の「大正貳年十一月廿六日起工 大正三稔六月六日竣工」の記録から耕地整理記念碑の作成の途中に桜島の大正噴火があったため「桜島爆発」の文字を追加したと思われる。

(3) 耕地整理記念碑（鹿児島市田上）

〔調査日〕

平成24年1月2日

〔所在地〕

鹿児島市田上小学
校前

〔建立日〕

大正6年3月26日

〔岩石の種類〕

溶結凝灰岩

〔碑の内容〕

（正面）耕地整理記念碑

鹿児島縣知事高岡直吉書

（裏面）

西武田村田上ノ耕地……………（省略）……

大正二年春工ヲ起スヤ萬難ヲ排シ千苦ニ堪ヘ戮心協力以テ必成ヲ期ス三年正月櫻島噴火ノ厄ニ遭ヒ功中絶ス然レドモ組合員ノ熱誠燃ユルカ如ク其功ヲ再興シ大正六年四月遂ニ其ノ竣工ヲ見ル……………（省略）



〔石碑の現状〕

三角柱の形をした溶結凝灰岩の大きな石碑で、文字もほぼ読み取り可能である。耕地整理の最中に桜島大正噴火があり、工事が中断したことが記されている。

3 大隅半島にある記念碑

(1) 移住記念碑 (大崎町野方)

〔調査日〕

平成23年12月9日

〔所在地〕

曾於郡大崎町野方
角堂

〔建立日〕

昭和59年8月吉日

〔岩石の種類〕

砂岩

〔碑の内容〕

(表面) 桜島大爆發 移住記念碑

大正三年一月十二日

(裏面) 昭和五十九年八月吉日

三代目松元正夫建之



○補助碑 (岩石の種類) 花こう岩

(正面)



突如起きた天災 桜島大爆發 大正三年一月十二日 我等の先祖黒神部落の住民は取る物も取りあえず我が子探す暇もなく、友々遭遇する族と火の玉を頭上にし又火の海へと櫓をこぎ出し対岸の牛根港へたどり着き、新居住地を求め疾走せられし由 最終的にたどり着いた所は野方村、村はもとよりこの地に有情と罹災者救済の心偉大なる人川崎喜三郎様の恩典にあやかりこの土地を与えたまえられこの地に安住することを得られたと古老より語り傳えられし土地なり 竹の柱に茅の屋根小竹の壁にむしろ畳で祖々たちは生きるための生活を始められた

「力」ある者は子守り、下男、下女とし奉公に着き、再起の途に着いたとやら

然れども昭和も末期とならんとするに若者たちは何故か知らこの土地を捨て光求めて散開しさびれ行く角堂部落となりし故に後世のため、ここに一碑建上いたす次第

(裏面) 罹災者名 9家族氏名が記載

〔碑の現状〕

昭和59年に建てられた比較的新しい碑で文字もしっかり読み取れる。隣に建てられた補助碑に、移住の経緯が記載されているが、竹林の中にあり人目につきにくい。

(2) 串良川改修記念碑 (肝属郡東串良町)

〔調査日〕

平成23年9月28日

〔所在地〕

肝属郡東串良町豊
栄橋(肝属川左岸)

〔建立日〕

大正6年6月

〔岩石の種類〕

溶結凝灰岩

〔碑の内容〕

(表面)

串良川改修記念碑

鹿兒島縣知事正四位勲三等 高岡直吉碑文

第七高等學校造士館教授從五位 山田準撰

(裏面)

串良川ハ源ヲ高隈山脈ニ發シ許多ノ細流ヲ合セ東西兩串良村ヲ貫流シテ高山村波見ニ出デ有明湾ニ注グ延長凡十里兩村耕地ヲ潤スコト約九百町然レドモ河身屈曲多ク廣狹常ナラス往々迂回シテ水勢ヲ阻ス是ヲ以テ毎年氾濫シテ沿岸ノ田園民戸ヲ没シ慘害言フニ勝ヘス兩村民改修ヲ以テ急務トナシ大正二年金四百圓ヲ支出シ工事方針ヲ調査シ日ナラス土木ヲ起サントス偶翌大正三年一月櫻島爆發シ高隈一帯ノ丘陵ニ降下堆積セル土灰沙石ハ一雨毎ニ洗ハレテ河身ニ流出シ水底ヲ埋ムルコト三尺乃至一丈平時濁水堤防ヲ越エ縦横乱流シ良田ノ沙磧ニ化スルモノ約百八十町而カルモ今後ノ災變測ル可ラス兩村民曰フ事此ニ至ル改修ノ事一日ヲ緩クス可ラスト乃チ相議シテ縣知事其他ノ臨檢ヲ請ヒ八月土木事務組合ヲ設置シテ組合債ヲ起シ且ツ縣費補助ヲ申請シ翌四年五月二十九日土工ニ着手シ五年九月二十一日竣工ス是ヲ第一次工事トス然ルニ工未タ竣ラサルニ當リ大水屢到



り新舊ノ堤防十數箇所ヲ決壊シテ再ビ良田約八十町ヲ流失シ堤防ノ修築河身ノ變更等幾多ノ改修ヲ要ス乃チ第二次工事ヲ規畫シ縣費補助ヲ仰キ五年六月二日起工シ六年五月三十日竣ル工費第一次総額金拾六萬八千九百餘圓内縣補助金九萬二千四百八拾二圓第二次総額金五萬二千二百餘圓内縣補助金一萬二千九百八拾五圓夫役ヲ要スルコト第一次一萬二千八百三十二人第二次二萬六百六十八人而テ河身ヲ變更スルモノ九箇所爲メニ工事區域初メ五里既ニ成ツテ二里ヲ減シ河身ノ耕スヘキモノ凡四十町ヲ獲堤防ヲ築クコト十九個所橋梁ヲ架スルコト土橋三板橋四是ヲ工事ノ大概トス今後水勢順流堤防堅牢住民堵ニ安ンジ美田幾百頃穰々トシテ秋成ヲ見ントス亦聖世ノ慶事チ謂フヘシ嗚呼兩村當事者熱誠奉公ノ誠アルニ非ンバ何ヲ以テ至ランヤ歳ノ六月竣工式ト共ニ紀念碑ヲ建テ其事ヲ傳ヘント欲シ縣理事官ヲ介シテ余ノ文ヲ請フ乃チ梗概ヲ叙スルコト此ノ如シ

大正六年六月

〔碑の現状〕

溶結凝灰岩の大きな碑で、多少読みにくい部分もあるがなんとか読み取ることができる。申良町郷土誌にその経緯および碑文が記されている。

(3) 新水門記 (鹿屋市申良町細山田)

〔調査日〕

平成23年9月28日

〔所在地〕

鹿屋市申良町細山田井手神社 (肝属川左岸・林田堰)

〔建立日〕

大正11年11月

〔岩石の種類〕

溶結凝灰岩

〔碑の内容〕

(正面から左まわりに記載)

大正三年一月櫻島爆發シ申良川ノ水源地高隈百引牛根等慘害甚シク降灰石ノ積ムコト一尺五寸餘河水爲ニ溷濁シ殆ント泥流ニ變シ魚族皆死滅ス全年三月洪水アリ上流山野ノ積砂一時ニ襲来シテ関係水田數十町歩ヲ埋没シ河床八尺餘ヲ崇メ堤塘ヲ破リ新溝ヲ埋塞ス其慘状見ルニ忍ビス水尚灌溉ニ適セズ人皆稻作ヲ捨テ陸稻作ノ準備ヲナス偶全年五月ニ至リ多少水色ノ復スルヲ視勇躍シテ之ガ復旧ニ着手シ溝ヲ掘リ堤ヲ築キ略水路成ル然レドモ大貫全ク閉塞シ其夫場水面下五尺餘ニシテ遂ニ懸賞ヲ以テ開通ヲ計レト



モ能ハス因テ新ニ水門ヲ開サクシ柴堰三段ヲ設ケテ水ヲ通ズルコトヲ得タリ當時堰砂四尺水深三尺餘ナリ而シ水量尚足ラズ全七年小貫ノ七尺幅ヲ十二尺ニ拡張ス新水門ト元松樋ニシテ故障続出スルヲ以テ本年三月工費千五百餘圓ヲ投ジテ幅七尺餘ノ石暗渠ニ改造セリ以來水量豊ニ関係水田六百十餘歩ヲ潤スヲ得タリ顧ミルニ已往九年間ニ要セシ水利費數萬圓出夫數算ヲ知ラス組合員及関係役員ノ奮闘努力ヲ以テ略復舊スルヲ得タルハ是人ノ和ヲ以テ天ノ時ニ勝ツト謂フヘシ茲ニ其梗概記シテ後日ノ考証ニ資ス
大正十一年十一月 西東申良林田堰普通水利組合管理者 上羽坪藤太郎識

〔碑の現状〕

溶結凝灰岩の大きな碑で、多少読みにくい部分もあるがなんとか読み取ることができる。申良町郷土誌に建立までの経緯および碑文が記されている。

(4) 堰改築記 (鹿屋市申良町細山田)

〔調査日〕

平成23年9月28日

〔所在地〕

鹿屋市申良町細山田井手神社 (肝属川左岸・林田堰)

〔建立日〕

昭和5年5月

〔岩石の種類〕

溶結凝灰岩

〔碑の内容〕 (正面から左まわりに記載)

抑々林田堰ハ寛文五年時ノ領主島津公郡奉行汾陽氏ニ命シテ堰ヲ築カシメ用水溝ヲ開鑿シ灌溉ニ資セシガ大正三年櫻島爆發以來災害徒ニ頻々其ノ都度巨費ヲ投シ辛シテ灌溉スルヲ得タリ然ニ昭和四年七月一日ノ大洪水ニテ石堰忽チニシテ根底ヨリ破壊サレ遂ヒニ斷水ノ余儀ナキニ至レリ其ノ慘状轉々言語ニ絶シタリト雖呆然自失ス所ヲ識ラズ斯クテハ由々シキ本村ノ死活問題ナリトナシ茲ニ組合員奮然トシテ起チ連日ノ豪雨尚ホ○マズ渦捲ク激流ニ身命ヲ賭シ萬難ヲ排シテ晝夜兼行應急工事ニ着手以來僅カ二十余日ニシテ定水量ヲ通水セシメタレバ村民漸ク愁眉ヲ開キ水稻ノ植付ヲ了セリ爾來組合當局ノ奔走ニ依リ英斷以テ愈々改築ヲ見ルニ至ル即チ昭和四年十二月十日起工所要日數僅々百日ヲ出スト雖モ天候徒ラニ不順加之難工事ヲ以テスルニ不眠不休ノ努力ト幾多ノ辛酸トハ遂ニ翌五年三月末竣工ヲ見ルニ至レリ總工費實ニ三萬一千四百六十六圓内縣費補助金一萬



三千七百圓ヲ仰ギタリ顧ルニ櫻島爆發以來十有七年
 組合員及關係役員能ク協力一致其ノ團結ノ力ヲ以テ
 自然ノ暴威ヲ制服シタリト謂フベシ災害當時埋塞サ
 レシ大貫工事竣成ノ翌日突如トシテ獨自貫通シタリ
 之レ自然ノ惡戯ニ非ズシテ何ゾヤ

茲ニ其ノ梗概ヲ石ニ刻シ以テ後證ニ資ス

昭和五年五月

〔碑の現状〕

溶結凝灰岩の碑で多少読みにくい部分もあるが、
 なんとか読み取ることができる。串良町郷土誌にそ
 の経緯および碑文が記されている。

(5) 開物成務の碑（鹿屋市串良町）

〔調査日〕

平成23年 9月28日

〔所在地〕

鹿屋市串良町
 （大塚山公園）

〔建立日〕

昭和10年 4月

〔岩石の種類〕

溶結凝灰岩

〔碑の内容〕

開物成務碑

農林大臣 從三位勲二等 山崎達之輔書

（裏面）

笠之原ハ大隅國肝属郡鹿屋町串良町高隈村ニ跨リ
 東西三里南北四里六千町歩ノ地域ヲ總稱ス土地高燥
 地味肥沃ナリト謂古來人煙稀薄ニシテ農耕極メテ粗
 放ナリ史ヲ案スルニ大正二年島津氏ノ此地ヲ領スル
 ヤ大ニ開拓殖民ヲ奨勵セリ……（略）……大正三年
 櫻島爆發ニ因リ耕地益荒廢スルニ至レリ歐州ノ大戦
 起リ我國食糧増殖ノ方策トシテ特ニ耕地ノ改良擴張
 事業奨勵セラルニ及ビ大正九年鹿兒島縣土地利用研
 究所ヲ設立シ農業經營ノ研究ヲ試ミ笠之原開拓ノ資
 料トナセリ茲ニ於テ乎地方ノ有志大ニ奮起スル處ア
 リ大正十二年相謀テ笠之原耕地整理組合ヲ組織シ
 ……（省略）……

昭和十年四月十七日

農林省耕地課長 正四位勲二等 片岡謙撰
 創立委員長 肝付郡長 日高彦市 ほか関係者の氏
 名記載

〔碑の現状〕

溶結凝灰岩の大きな碑で多少コケなどの付着によ
 り一部読みにくい部分がある。「石碑は語る高隈の
 今昔（2002）」に碑文が記載されている。



(6) 復舊工事記念碑（鹿屋市下高隈町）

〔調査日〕

平成24年 1月 8日

〔所在地〕

鹿屋市高隈町
 上重田

〔建立日〕

昭和10年 4月

〔岩石の種類〕

溶結凝灰岩

〔碑の内容〕

（表面）

復舊工事記念碑

（裏面）

大正参年十一月耕地整理竣工

耕地面積貳拾町四反九畝貳拾八歩

大正六年五月櫻島爆發ニヨル大洪水ノ爲 破壊

昭和四年三月三日復舊工事竣工

復舊加入反別拾七町参反九畝拾参歩

（右側面）

第一代耕地整理組合長 東 一左右

副組合長 園田 清彦

第二代耕地整理組合長 小野田吉熊

副組合長 鮫島 孫二

（左側面）

耕地整理請負人 福岡頭人 矢野梅吉

復舊工事請負人 高崎袈裟市

〔碑の現状〕

溶結凝灰岩の碑で、碑文はしっかり読み取ること
 ができる。



(7) 河川改修記念碑（鹿屋市下高隈町）

〔調査日〕 平成24年 1月 8日

〔所在地〕 鹿屋市下高隈町

〔建立日〕 大正 5年 2月竣工（1回目）

大正10年 2月竣工（2回目）

〔岩石の種類〕 溶結凝灰岩



※ 写真右は河川改修記念碑
 左は第二回河川記念碑

〔碑の内容〕

〔正面〕 河川改修記念碑

〔裏面〕 コケのため解読が難しい

〔石碑は語る高隈の今昔〕(安藤一夫2002より抜粋)

大正三年一月十二日櫻島大爆發ニ依ル大洪水ハ堤防ヲ破壊シ沿岸ノ耕地ヲ埋没シテ殆ト廢滅ニ歸セシメ慘状其極ニ達セリ茲ニ於テ改修ノ急ナルヲ認メ本工事ヲ施行セル所以ナリ工事區域上高隈字井手ヨリ下古園間千貳百間餘兩岸下高隈川井田ヨリ市園川原間六百間餘兩岸

大正四年五月起工 大正五年二月竣工
總工事 參萬八千七百六拾九圓下古園青年
運搬寄附

工事監督 有馬安兵衛 原田伊太郎 福山千春
小野有市

工事委員 小野田新介 中村庄太郎 假屋十太郎

銓衡委員 坂元友二 南亀太郎 吉永傳次郎

田中袈裟太郎 富岡戸右衛門

吉原亀太郎

工事請負人 國分文彌

石工 揚野喜助

大正五年三月十九日

第二回河川記念碑 (碑文)

本河川ハ去ル大正四年一度工事ヲ起シ同五年全ク竣工ヲ告ケタルニ恰モ大正六年六月十六日ノ大洪水ニ依リ堤塘破壊セラレ附近田地荒廢ニ歸スル患アルニヨリ茲ニ第二回ノ工事ヲ起スニ至レリ

以下、工事委員・工事監督・前村長・村長・助役・収入役・書記・村會議員・區長・運搬寄附・石工の氏名が記載

大正八年十一月起工 大正十年二月竣工

總工費 六萬百拾貳圓

〔碑の現状〕

2つの碑ともコケの付着や風化が激しく、正面以外は文字が読み取れない。また下部は土手の砂に埋まっている。「石碑は語る高隈の今昔」(2002)に碑文の内容が記されており、桜島大正噴火によって積もった軽石や火山灰はその後の降雨によって高隈川周辺の地域は洪水となり見渡す限り荒涼たる地に変わったことが記されている。

(8) 城山隧道碑

〔調査日〕 平成24年1月8日

〔所在地〕 鹿屋市下高隈町 (高隈城跡)

〔建立日〕 大正4年10月

〔岩石の種類〕 溶結凝灰岩



〔碑の内容〕

〔正面〕 城山隧道碑

〔左側面〕

大正三年一月十二日櫻島爆發後ノ大洪水ハ未曾有ノ大氾濫ヲナシ檜〇〇谷ノ堤塘ヲ決潰シ剩サエ隧道ハ土砂流入シ爲ニ閉塞シ新タニ掘鑿スルノ止ムナキニ至レリ仍テ予等委員舉〇ラレ此ノ工事ヲ田中某ニ請負ハセ工事ニ着手セシモ水路ノ高低誤アリ中途更ニ平田岩助ニ請負ハシメ日夜工事ヲ督勵シ數閱月ヲ經テ漸ク工事ヲ終エタリ茲ニ概畧ヲ記シテ後世ノ記念トス

大正四年八月一日

此ノ隧道間數二百二十八間

此工事費七百貳拾圓五拾參錢六厘

此水受反別十八町反畝歩

工事委員 坂元友二 鎌田 厚 平峰〇之進 小野田新介 吉岡武二 松留吉太郎 本村三太郎 有村次郎



▲城山トンネルから続く用水路

〔碑の現状〕

一部を除いて、ほぼ読み取ることができる。隣に新たな改修記念碑 (花こう岩製) が平成23年3月に建立されている。

4 大正噴火の記載があるその他の記念碑

(1) 堤塘竣工記念碑（霧島市）

〔調査日〕

平成24年1月5日

〔所在地〕

霧島市国分広瀬
（大穴持神社）

〔建立日〕

昭和29年3月

〔岩石の種類〕

安山岩



台座部はコンクリート、安山岩質溶岩

〔碑の内容〕

（正面）堤塘竣工記念碑

元参議院議員 中馬猪之吉書

（正面下）

小村新田ハ大正三年櫻島大噴火ノ爲メ土地沈降打
續ク台風ノ爲メ堤塘決潰大災害ヲ蒙リ直ニ復旧耕作
ヲセル處昭和二十一年同島再ビ噴火 風水害等ノ爲
メ被害ヲ受け再ビ堤塘ノ嵩上ゲ 農地復旧客土二千
万円内地元負担金五百六十万円ヲ投ジ復旧シ耕作セ
リ 然ルニ突然昭和二十六年十月十四日夕刻秒速二
十六メートルノルース台風ハ一瞬ニシテ努力復旧セ
ル堤塘ヲ大分決潰シ良田変ジテ大沼澤トナリ惨状目
ヲ當テラレズ部落民ハ呆然自失ノ有様デアツガ直
ニ耕作者一同ハ復旧決議シ関係當局ニ陳情 當局ハ
一部國營一部縣營トシテ復旧工事ヲセラルル事ニナ
リ國縣費六千五百五十二万円地元負担金八百十五万
円計七千三百六十七万円ノ巨費ヲ投ジ二十九年三月
見事竣工セリ 此ノ間耕作者ノ一致団結ノ熱意ト関
係當局ノ同情アル指導ハ勿論特二十有余年ノ間終始
一貫復旧理事長トシテ老軀ヲ提ゲ奮斗色マザル中馬
太次右衛門村長中馬時雄衆議院議員中馬辰猪 理事
監事 總代等ノ諸氏ノ献身的努力ニ依リ工事が完
成シ美田ニ復旧耕作シ生活ノ安定出来ル様ニナツ
事ヲ銘記セネバナラ仍テ官民関係者一同ノ勞苦ヲ偲
ビ感激スルト共ニ將來ヘノ發展ヲ期スルタメ茲ニ各
方面ノ寄附ヲ仰ギ竣工記念碑ヲ建設シタ次第デア
ル

昭和二十九年三月

記念碑建設発起人委員長 中馬猪之吉誌

〔碑の現状〕

台座部を含めて高さが3mを超す安山岩の大きな
碑で、文字もしっかりしている。

(2) 土地整理記念碑（曾於市大隅町）

〔調査日〕

平成24年1月5日

〔所在地〕

曾於市大隅町
二重堀（大隅北
公民館敷地内）

〔建立日〕

昭和35年4月21日

〔岩石の種類〕

溶結凝灰岩

〔碑の内容〕

（正面）土地改良記念碑

鹿児島県知事 寺園勝志書

（裏面）ボラ層は安永八年凡そ百八十一年前の桜島
大爆発に依り噴出され大隅半島北部始良郡福山町牧
之原を中心として東北に流れ十三ヶ町村の一部に亘
り面積八〇〇〇ヘクタールの拡大な地域に層を形成
して推積した軽石であつてその内耕地約三一一〇ヘ
クタールを占めていたこの地区は其の一部で層の深
さ約三〇乃至七〇糎に及び表土は大正三年の爆発と
前後二回に亘り推積した火山灰土を以て形成し肥料
の有効成分はボラ層を透過流出し植物の育成極めて
悪ク農作物は殆ど無収に近かつた昭和二十七年に至
り地元民の願望が叶ひ県選出国會議員の努力に依り
特殊土壤法の立法化に成功し国の助成を以て土地改
良事業を推進する事となり土地改良法第七条の規定
に依り上坂元坂元二重堀船久保榎木段の五土地改良
組合を設立ボラ層排除事業に着手昭和二十九年八月
事業推進上坂元土地改良区に合併せり、総工費實に
四千一百三万三千円一〇アール平均二万七千八百余
円を費し面積百五十一ヘクタール約百五十一町二反
四畝の耕地を満六ヶ年の長期に亘り昭和三十二年
度に至り先祖代々の宿願であつた不良土壤排除の大
事業を完成するに至つた右本事業達成には組合員の
努力は元より寺園県知事当時恒吉村長伊集院忠雄氏
岩川町長黒木良行氏の功績は極めて大なるものがあ
つた。

昭和三十五年四月二十一日

台座：初代理事長山口文雄ほか氏名が記載

〔碑の現状〕

溶結凝灰岩の碑で、ほぼ読み取ることができる。
大隅町誌に碑文が記載されている。



5 終わりに（今後の課題）

一昨年前から県内にある桜島大正噴火に関する記念碑等の調査を行ってきた。今回、桜島の爆発記念碑や移住記念碑以外の碑文からも大正噴火の猛威や噴火後に堆積した火山灰、噴石、軽石による土石流や堤防決壊等で河川、土地の改修作業を行った先人たちの苦労や偉業についても確認することができた。また、大自然の驚異と火山地帯で生活する心構えや教訓を得ることができた。

桜島大正噴火から100年が近づいた今、風化により文字がはっきり読み取れない碑も一部見られる。公民館や学校、神社内にあり地域の方々にしっかり管理されているものもあれば、廃校になった校舎の片隅にコケやツタがからまり、誰に気付かれることなくひっそりと立っている碑もある。これらの碑はまぎれもなく大正噴火の様子を物語る貴重な資料であり、先人からの大切なメッセージでもある。

今後の課題として、貴重な大正噴火の資料にスポットをあて、多くの人にこれらの碑の存在を知ってもらおうと共に、関係機関と連携を図り、今後の状況によっては保護したり保存したりする手立てが必要であると考えます。

参考文献

- ・安藤一夫（2002）石碑は語る高隈の今昔
- ・申良町教育委員会（2005）申良町郷土誌
- ・鈴木敏之（2010）大正3年桜島爆発記念碑等の現状について。鹿児島県立博物館研究報告，29:86-96
- ・鈴木敏之（2011）種子島における大正3年桜島爆発記念碑等の現状について。鹿児島県立博物館研究報告，30:73-75
- ・橋村健一（1998）桜島大噴火。春苑堂書店

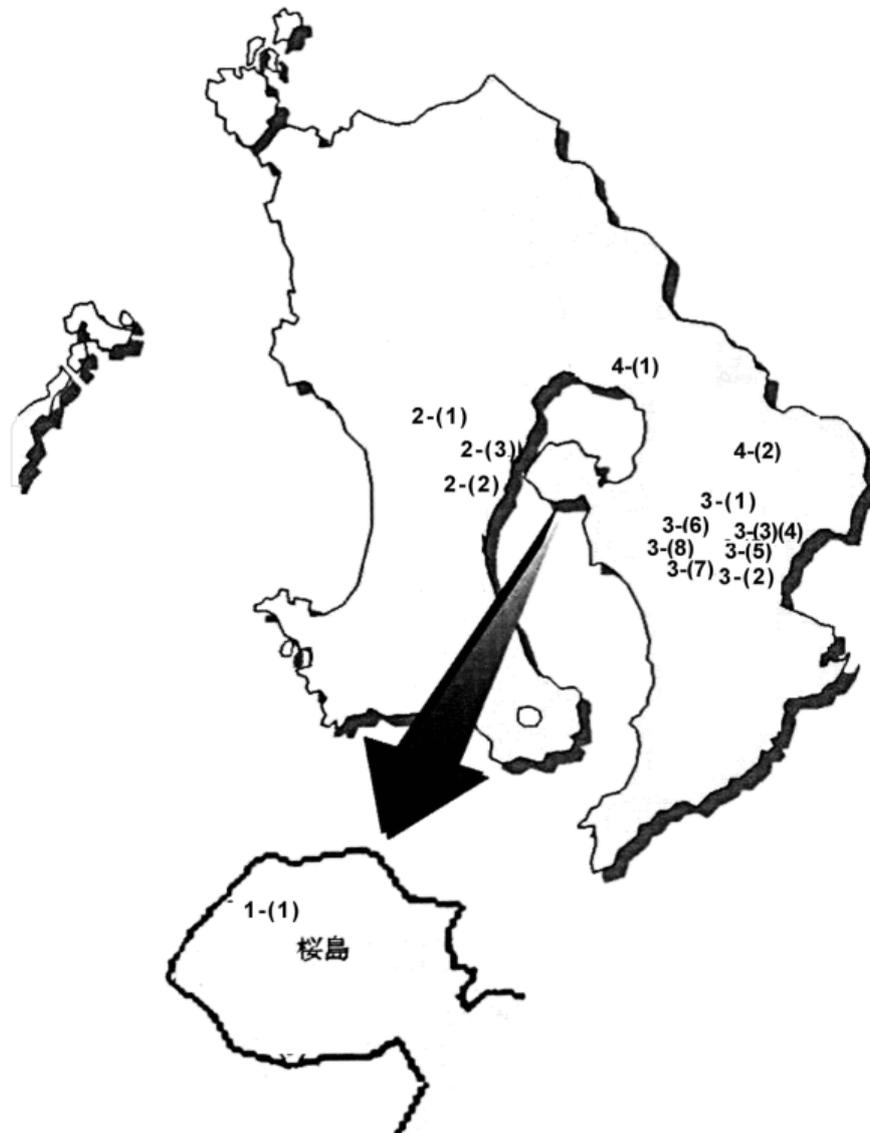


図 桜島爆発記念碑等の所在地略図（図中の番号は本文中の見出し番号と一致）